

## はじめに

大学教育センター長・FD 委員会委員長

---

### 横田 佳之



本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、昨年度からスタートした「新しい対面授業」の本格実施の段階に入りました。知識教授の一部をオンデマンド型に移行し、対面授業では教員・学生のコミュニケーションを重視するとともに、ICT等を活用して学生へのフィードバックを強化する「新しい対面授業」は、教員・学生の意識の変化を伴い、次第に定着しつつあると考えております。来年度については、通常シフトの「新しい対面授業」を実施する予定です。

さて、本年度のFD委員会は、昨年度に引き続き、各部局の実情や特色に応じた教育の質保証及び学修成果の把握・可視化を目的として、「部局FD活動の推進～学生の成長に繋がる学修成果のアセスメントの実施」を年間テーマに掲げております。本年度は、人文社会学部1件、都市環境学部1件、システムデザイン学部1件、健康福祉学部2件の部局FDセミナーが開催されているとともに、専門教育科目の授業改善アンケートについても、オンラインに軸足を移しながら、全ての部局で実施されていることをご報告いたします。

全学FD活動に関しては、4月と10月の新任教員FD研修・教育力向上FDセミナーを着実に実施するとともに、6月のFDセミナー「学生の成長実感に繋がる学修成果の可視化とは」では、「可視化するの学修成果だけ？」という問いかけから、学生の学びのプロセスを含めた可視化の大切さについて、大阪公立大学高等教育研究開発センターの星野聡孝先生にご講演いただきました。また、本学教職員により幅広い知見を提供するため、11月に本学で開催された大学教育学会課題研究集会の基調講演及びシンポジウムを本学のFDセミナーとして位置づけ、リアルタイムで参加できなかった教職員に対する録画配信も実施しました。一方、アクティブ・ラーニングの推進を掲げた第三期中期計画の最終年度であることから、アクティブ・ラーニング実施状況アンケートを実施し、これまでの成果と今後の課題を検証すると同時に、今後のTA・STA・SA制度の見直しに向けて、学生・教員を対象とするTA・STA・SAアンケートを実施しました。また、オンライン実施が定着した全学共通科目の授業改善アンケートや卒業時の学修成果等アンケートについては、課題となっている回収率を向上させるため、授業内や学位授与式内での実施を呼びかける等の取り組みを継続しております。

来年度以降も、東京都立大学FD委員会として、「新しい対面授業」を支える全学的なFDセミナー、アクティブ・ラーニング関連セミナー、TA活用支援及び各種アンケートを企画・実施していくと同時に、部局FDセミナーをより一層充実させるための支援や、学生の視点を取り入れたFD活動のさらなる充実等、よりきめ細かい活動を展開していく予定です。学生自身が目標を意識しつつ主体的に学修し、その成果・プロセスを適切に評価し、さらに必要な学びに踏み出していく自律的な学修者となることを目標に、学生や教職員に過度な負担をかけない教育体制を構築していく所存です。

(ぜひ、東京都立大学FD委員会HPもご覧ください：<https://www.comp.tmu.ac.jp/FD/>)

# クロスロード第 22 号

## 目 次

はじめに

### I. 巻頭特集 F D セミナー開催報告

趣旨説明 .....	4
横田 佳之 (大学教育センター長・F D 委員会委員長)	
基調講演 .....	5
星野 聡孝氏 (大阪公立大学高等教育研究開発センター 副センター長)	
学内における学修成果可視化の取組発表① .....	12
近藤 伸彦 (大学教育センター 准教授)	
学内における学修成果可視化の取組発表② .....	15
佐藤 潔 (都市環境学部環境応用化学科 准教授)	
パネルディスカッション .....	19
参加者アンケート .....	23

### II. セミナー・研修開催報告

F D セミナー (大学教育学会 2022 年度課題研究集会) .....	27
新任教員 F D 研修 .....	32
教育力向上 F D セミナー .....	33
T A 初任者研修 .....	34
T A スキルアップセッション .....	35

### III. アンケート実施報告

卒業時の学修成果等アンケート .....	39
----------------------	----

### IV. 活動報告

部局 F D 活動報告 .....	47
ベスト・ティーチング・アワード、教育改革推進事業 .....	59
F D 委員会活動記録 .....	67